

おかげさまで、竣工・開園

「私立認定保育所」開園。そして、「幼保連携並列型認定こども園」へ型式変更

「ご理解ご協力、よろしくお願ひ致します」。そして「おかげさまで」と「ありがとうございます」。いつも心に思い口している言葉ですが、まさに、その言葉を支えに新たな事業形態でのスタートを切ることができました。長きに渡り分断されていた幼保が、互いの役割を果たしつつ必要とされる部分を補い合うことで、子ども達のさらなる健やかな教育・保育環境の充実を目指し、努力と工夫を重ねていきます。



むさしの

学園長
が書く

新聞

Vol.4

幼保連携の前、それとは別に、認可保育所の認可

幼保連携に向けた学法設置の認可保育所、つまり、「私立認定保育所」を設置するに当たり、まずは厚労省側ガイドラインに沿った形での整備が必要になります。向かう先が幼保連携であるにもかかわらず、「幼稚園児が利用することを想定した設計はNG」との指導がありました。ただし、広大な園庭や雑木林や駐車場など、幼稚園施設を利用することに対しては特に支障はありません。

認可取得（いわゆる指針）の順を書いてみると…、「認可保育所基準を満たした保育所の認可取得」→「幼保連携型認定こども園への形式変更」となります。そして、それぞれの段階での所轄が異なり、指導内容にも事業として行う事にも相違があります。保育所設置段階のプランニングから設計にかけ、だめだと言われていたことが、連携を組むと推進されるたりもします。

例えば、幼保連携になると相互での給食の提供が可能。しかし、保育所設置段階では、その全体人数を見込んだ施設整備が認められません。当初から連携を見据えた設置が可能であれば、連携後の追加工事の必要がなかったり、ボリュームが生むメリットを生かせるのですが、結果、狭く使い勝手の悪い厨房を強いられたり、竣工したばかりの建物なのに再度、工事の必要が出てきたりします。当初から連携を踏まえた整備を行うことができれば、余計な施設整備費や搬入費等も削減でき、また、食数が増えれば幼保両方の給食単価の引き下げも実現できたりと、無駄な投資を省いた上での幼保相互の環境向上や保護者負担の軽減が望めると思うのです。また、余裕スペース等も、幼保・地域相互の共有に対する付帯事業の幅を広げる有効なスペースとなりうる可能性が見込めますが、予定されているもの以外は認められません。法律があり、制度があり、様々な立場の下での指導にて計画が進められますが、各市町村での事例を耳にすると、窓口一つの違いにより能力の違いや解釈の幅があるようにも感じました。

そもそも、合理効率化を実現しつつ環境向上を目指すという工夫や努力は民間においては当たり前なことだと思うのですが、縦割り行政の下では仕方がないことなのでしょうね。もはや、法規や制度は変えられませんかから文句を言っても仕方がない。そこは、できる限り頭を使うしかないでしょう。そのあたりは各事業者の工夫や努力次第かと思われまじ、まだまだ書けないこともたくさん。理解せざるを得ない背景だとしていますが、一応、リアルに感じたことなので書き残しておこうと思いました。だって、疑問や不満を「口にするだけ」じゃ何もなりませんからね。それが、この新聞を書こうと思った、ひとつのきっかけでもありますし…



自由で様々な価値観の中で…

様々な民間施設では心地良さや利便性に向け、工夫や努力をしています。同じ学法である大学のキャンパスも素敵。なのに幼稚園は幼稚園づく、風景から浮くようなバステルだったり、アニメのキャラクターや玩具が散らばっていたり。「だって、子ども相手の幼稚園なんだから。」という声も聞こえてきそう。ただ、幼稚園は教育機関であり、園内には自然環境をはじめ、沢山の素晴らしい要素が存在しています。そして、子ども達の感覚や感性は日々身の周りの環境に染められています。四季折々の風情、素晴らしい日本の文化や歴史を感じ愛する心が薄れつつあるように感じられる昨今。70玩具を与えるよりも、居心地の良い美術館や建造物、そして、四季を感じつつ自然環境の中で日々過ごせるような環境を与えたいというのが、この業界へ入って来て以来の長年の願ひでした。

教育・保育、それはどちらも人づくり。子どもだけでなく、その子ども達と接している、ご家族の皆様にも心地よい笑顔と眠っている感性を掘り起こしてくれるような環境を作りたいです。しかしながら、保育施設が望まれている社会においても、現状の補助体制では軽量鉄骨（プレハブ）など四角い建物に類似するものしか建てられないのが現状。それでも必要としている方々は沢山いますし、各幼稚園や保育園、また行政も終始努力をしているものと信じています。そのような中で、幼稚園部分の増築も合わせ相当の自己資金を投入し、時に「贅沢」（贅沢ではなく良いものを…ですが）とも言われる施設を計画しました。4月に入り、新たな認定こども園として動き出して以来、ありがたいことに、足を運ばれるご家族からは「綺麗」「素晴らしい」「心地良い」と、そんな言葉を頂きます。そして、「それこそ大切なこと」だと、私は思っています。教育施設・保育施設、ともに、その存在の背景にあるのが人と環境。今後も「安い」モノを選びをするようなことは禁止。少々使いにくくても、素材やモノに備わる心を大切に、そこから得られる感性を育めるような備品選びや施設整備をしたいと思っています。その辺りについても、様々な考え方があり、もちろんこれは、むさしの独自の考え。

…という事で、様々な異なる付加価値やご負担を検討いただき、広い選択肢の中で価値観や思想に合った施設を選ぶことこそが、各ご家庭にとって最良の園選びかと思うとともに、Going My Way、私が伝えたい事に自信を持ちつつ、むさしのの心を守り続けたいと思っています。

幼保を取り巻く現場からの情報誌。私的な思考も含めた乱筆な走り書きの紙面であり、誤字脱字、記述への誤解等あるかもしれませんが、ご容赦頂きたく存じます。



経営体質や構造改革のスタートとなる年度

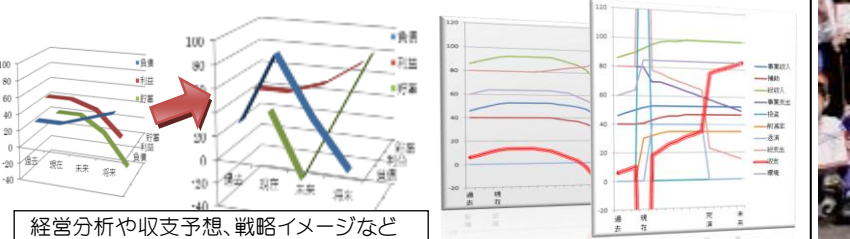
対応→前進→形→耐力→構築 … 園長6年目のテーマは「起点」

「そんなに資金を…」「無駄じゃない…」「よく保育所なんか…」？周囲の一部からは様々な声。もちろん各園が将来へ向け、様々な分析、試算を重ねる経営努力を経てのご意見？だとは思いますが、理解できなかつたり悔しい思いも。挙句の果てには、この新聞を見て、「書く暇があつていいね！？」わかる人は分かって頂けるとは思いますが、書類は積み上げれば数m。かれこれ2年、土日もなく、平均すれば日々15時間程度は働いていますよ！！

制度や体制、日々の悩みに対し不平不満を口に傷をぬぐいあうばかりではなく、伝え、広めることこそ大切だと考えているから合間を縫って書いています。「PCが苦手？」学ばないじゃないですか。「時間が無い？」休日はあるでしょ？過去、現場は？環境は？運営は？そして保護者・子ども・職員の待遇や利益は？考えられるシミュレーションや試算、数年計画での現場の導入を経た上、預り保育の環境向上・料金値下げ・職員体制や待遇の上昇と共に実現した幼稚園型認定取得の時もそうでした。若干気持ちは憤慨気味…ですが、口には出さず、覚え書き。静かに記しておこうと思うのです。

そう、この世界に入ってからというもの、外で感じたような、経営面での掘り下げた会話は少なく、法制度戦略や、根拠に基づく中長期の経営計画や収支計画なども見当たらず、旧態依然とした大河の中で、正直、どこか焦りや危機感を感じ続けてきたものです。

「もっとできることがたくさんある」と。あらゆる面において改善や前進の可能性があるなら進みたいと思うもの。「勤勉は怠け者への静かなる復讐」…好きな言葉なんです。はるか先にやってくる、「こうしておいたほうが良かった…」。「あの時、動かなかった自分のせいでしょ？」、将来そうならない為に、とにかく現状において考えることに対して最善の経営努力を尽くしたい。そして今回も、年齢区分並列、どちらが可能性を含んでいるか等の視察や考察、分析から始まり、単体及び連携での経営分析、制度対応、合理効率化の試算、また、住宅や人口調査なども含め、様々な要素を組み入れた上で計画の実行に移しました。「投資増」→「厳しい経営」とは限らない。投資が永続的に何をどれだけ生み出せるかがカギ。それを見据え見いだせるのなら、前進は最大の防御かと思うのです。そんな思いを背景に、「社会的ニーズに対する貢献」、「1+1≠2、いわば利益や環境への相乗効果を生み出す構想」、「1+1の出費や負担も2以下を実現する合理効率化」そして、いかなる制度の変動の中でも対応できる形を模索した上での歩み出しとなります。先々、保護者や子ども、社員に対し恵まれた環境の維持と提供が続けられるよう、今後は現場での力が試されます。大きな変換の年であり起点となる年。これからが始まり。スタッフ一同、工夫や度量を怠らず、共に歩んでいけるよう、意思統一とともに指導徹底を怠ることなく努力していかねばと受け止めています。



経営分析や収支予想、戦略イメージなど

幼稚園型認定こども園移行前後の経営分析グラフなど

筆者紹介 東村山むさしの 認定こども園

教育部・東村山むさしの幼稚園
保育部・東村山むさしの保育園
学園長・野澤貴春

1971年 1月、市内廻田町に生まれる。
1983年、東村山市立回田小学校卒業。
1986年、同、東村山第四中学校卒業。
1989年、明星高校卒業。
1993年、中央大学・法学部卒業。

法律・政治を学ぶ傍らスポーツ活動にも力を入れ、日本代表にてモスクワへ。大学卒業後は、コンピュータ、医薬、金融など様々な接点のもと実業団にて選手活動や広報・開発などにかかわる。国民体育大会や全国大会にて優勝ほか入賞多数、東京都スポーツ優秀選手賞等、多々受賞。中学校教諭・高等学校教諭免許、大型自動車運転免許、Microsoft Office Specialist、等取得。
1997年 学校法人野澤学園勤務。
2008年 同園、事務長を経て園長へ就任。
2013年 「私立認定保育所」併設。
幼保連携認定こども園・学園長就任。